

聖マリア病院を過去に受診された、または現在受診中の皆様へ

聖マリア病院では、皆様の診療情報等を利用し、下記の研究を実施しております。

研究内容につきましては、社会医療法人雪の聖母会、研究倫理審査委員会にて承認されたものです。本研究の対象者に該当される可能性のある方で、研究について詳細にお知りになりたい場合や診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。なお、解析用のデータが確定（データ固定）している場合は、研究データから情報を削除できませんので、ご了承ください。

① 研究課題名	Open Abdomen における至適一時的閉腹法に関する検討		
② 実施予定期間	承認後 ～ 2026年3月31日		
③ 対象患者	2010年1月から2021年3月までの間に、当院にて開腹手術を行い、腹部開放管理を受けた患者様		
④ 対象期間	2010年1月1日 ～ 2022年3月31日		
⑤ 研究機関の名称	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院		
⑥ 対象診療科	外科		
⑦ 研究責任者	氏名	貞苅良彦	所属 外科
⑧ 使用する資料等	診療情報より下記事項を調査します。 年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、病名、手術術式、手術内容、手術日、身体所見、血液検査、レントゲン検査、心電図、超音波検査、CT検査、MRI検査データ、治療内容、入院期間、合併症、退院時転帰		
⑨ 研究の概要	様々な病気に対して開腹手術は有効な治療ですが、しばしば、患者さんや病気の状態によって、閉腹することが難しい状況が生じます。その際、腹部を閉じることなく手術を一時的に終了する手段として、腹部開放管理（OAM）という治療法があります。このOAMという治療法が有効であることは世界中で報告されておりますが、具体的にはどのような方法でOAMを行うべきかなどについては、まだまだ未解決のままとなっております。そこで、過去10年間にOAMを受けた患者さんの診療情報を基に、どのようなOAMの方法が（一時的閉腹法と呼びます）が、患者さんにとって最も良い方法であるかを調べるために本研究を行うこととしました。		
⑩ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては下記の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑪ 結果の公表	学会や論文等で発表いたします		
⑫ 個人情報の保護	個人情報を保護するために責任者を設定します。研究する際、個人の特定につながる情報は、当院で特有の番号に置き換えて（このことを「匿名化」と言います）管理します。学会等で発表する場合も、個人を特定できる情報は使用しません。		
⑬ 知的財産権	本研究の主施設である慶應義塾大学医学部に属します		

⑭ 研究の資金源	なし	
⑮ 利益相反	研究結果に影響を与えるような利害関係はありません。	
⑯ データの2次利用	本研究で得られたデータ等の2次利用により新たな研究を行う場合は、改めて研究計画書を作成し、再度研究倫理審査委員会の審査を受けます。	
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	聖マリア病院 外科	
	電話	0942-35-3322 (代)